

9' (f) バイン工場廃液による魚類に及ぼす影響調査

調査員 久高喜八郎

趣 旨

北部水産技術員連絡協議会よりバイン工場廃液による魚類に及ぼす影響を調査してこれとの依頼があつた。それによると羽地村奥我川、今帯仁村大井川、本部町清名川、大宜味村大俣川等が近くにあるバイン工場廃液の魚類への影響又は全滅状態に陥っている、このまゝの状態が続くとこれらの河口又は内海の魚類にまで影響を及ぼし魚民にとっては一大の脅威になるので早目に調査してもらい、その対策を立てたいとのことだつた。

先に百草製糖工場汚水問題、田嶋川汚水問題があり、工場新設、増設等で年々これらの問題は数多くなるものと思われるのでテストケースとして今回羽地村の奥我川を下調査することにした。

期 間

1950年9月15日から同年同月16日迄の2日間

場 所

羽地村奥我川

方 法

まず現地で開込の調査を行い、その後奥我川の箇地点で採水し、水温比重を測定し、プランクトンネットを引いた。

結 果

1. 開込の調査

宮平君英氏(羽地村水産技術員)

奥我川の上流にある伊差川農産バイン工場は1950年8月(旧盆)頃より操業しているが同工場排水の流入する川の下流、我部祖橋付近では工場操業開始前2釣師の好魚場であつた、ところが現在ではかつて棲息して居た鯉、鮒、鰻、鱒等が全く見えず釣師から見離されている状態である。

但し同じく奥我川に注いでいるがバイン工場からの廃液の影響を受けていない我部祖橋の北側を流れている小川は現在も鯉、鮒、鰻等が棲息していて釣師を集めている。この事実から考えてみても、バイン工場廃液の影響は魚類に大きな影響を及ぼしているものと思われる。

なお昨年は羽地内毎に腐敗したバインを大量に捨て、然も工場廃液が河川を汚濁し毎に流入したが、此の為に河川の魚類が絶滅し、その上河口及び沿岸に着集した稚魚類特に鯉飼料等もその被害甚しく減少していると思われる。